

ここであってよかった奈良西養護学校

- 児童生徒・保護者・教職員・奈良西帝塚山地域の人々、皆がこう思える学校 -

奈良県奈良市		●活動名 地域と共にある学校づくり			●関係する学校名 奈良県立奈良西養護学校	
協働活動開始年度	平成 23 年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和4年3月設置予定	地域学校協働本部	無	
活動区分	学校支援活動		地域課題解決学習	-		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		地域学校協働活動推進員等の数	-		
ボランティアの数	延べ登録人数 40人	企業・NPO等との連携	無	ICT機器活用	無	
参考URL	http://www.e-net.nara.jp/sns/nishivougo/index.cfm/1.html					
●連絡先	奈良県立奈良西養護学校			☎ 0742-45-1421		

本校のイメージマスコット「ならにっしー」創立10周年を記念してつくり、さまざまな行事・イベントに活用している。



●活動の概要・経緯
本校は、平成20年に、奈良市内の閑静な住宅地に、旧高等学校の校舎を改修して誕生した知的障害特別支援学校である。開校以来、住宅地内という立地の特徴を生かし、「ここであってよかった奈良西養護学校」を学校スローガンに、地域と共にある学校づくりに取り組んできた。小学部・中学部は、居住地校交流の充実を目指して、同じ住宅地内にある小・中学校との学校間交流を継続して実施している。高等部では、家政・農業・工業の専門教科(校内では「しごと」という名称)において、地域教育協議会の協力により、ボランティアの方々とともに活動する機会を設けている。また、農作業に関わっては、近隣の大学の農学部と連携した取組を始めている。毎年11月には、地域の文化的行事である「ふれあい文化交流会」が学校を会場に開催され、高等部生徒が舞台発表や販売活動等に取り組み、地域の方々との交流を深めている。その他にも、地域内にある保育園・幼稚園、高齢者施設等との交流・ふれあい活動にも取り組んでいる。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

高等部の「しごと」の学習は、7つの学習グループに分かれて、学習を行っている。この中で、「果樹園芸班」や「農場班」、「軽作業班」では、地域教育協議会の協力により、ボランティアの方々に学習に参加していただき、ともに活動をしている。「農作業班」では、近隣の大学と連携し、ユニバーサル農法を学習に取り入れている。「木工班」や「布・糸工房班」、「陶工房班」では、それぞれの班で製作したものを文化交流会や地域のカフェ等の店舗で販売することで、地域の方々とのふれあい、活動を知っていただく取組を行っている。「メンテクリーニング班」は、地域からの依頼を受けて、障子紙の張り替え作業に取り組んでいる。また、「職業家庭」や「生活」の学習において、来校された方や高齢者施設の利用者の方に、喫茶サービス(コーヒーのおもてなし)の活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

学習の際には、生徒に対してその日の学習の予定を視覚的な支援を行いながら確認するとともに、ボランティアの方々の紹介を行うことで、生徒が見通しをもって活動できるよう配慮している。販売活動やおもてなし活動については、生徒それぞれが担当する役割を決め、模擬的な練習も行いながら、主体的に取り組めるようにしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

ボランティアについては、地域コーディネーターを通じて依頼の連絡を行う。その際には、学習内容の概要を事前に知らせ、また年度末には、活動についての意見等をいただくことで、継続して取り組めるようにしている。大学に対しては、授業担当者や研究者が連絡をとり、生徒の活動内容や手順等についての相談を行っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

ボランティアの方々との活動をとにもすることは、生徒にとっては、「友達でもなく先生でもない大人の方」との新たなふれあいの場となる。活動を続ける中で、生徒からボランティアの方に話しかける場面が増え、一緒に活動することを楽しみにするようになるなど、生徒の社会性やコミュニケーションの力を高めることにつながっている。一方、ボランティアの方々も、生徒たちとの交流を楽しみにしており、授業での活動支援を通じて、学校のさまざまな取組について、理解・協力を得ることにつながっている。また、販売活動などで多くの地域の方々とのふれあい、頑張っている姿を評価されることで、生徒の達成感や自己肯定感を高めることができている。

●その他

小・中学部では、同じ住宅地内にある小中一貫校との交流・共同学習を行っている。一貫校の2年生が小学部児童と出会い、4年生は交流学習を楽しみ、7年生は中学部生徒と、「しごと」の学習をともに学んでいる。継続して取り組むことで、より豊かな関係づくりができています。



地域での文化行事の開催
販売



研究者との協力によるポテトの栽培